

狂犬病のワクチンについて

- 狂犬病は、狂犬病ウイルスを持った犬、猫、こウもり、キツネなどの野生動物に噛まれたり、傷をなめられたりすると発症します。
- 海外で生活される方(特に東南アジア、南西アジア、中南米、アフリカ等)は、事前に接種は可能ですが、暴露後のワクチン接種も必要です。
- 日本国内の犬に噛まれても接種の必要はありません。
- 外傷後に狂犬病の感染が疑われる場合、狂犬病ワクチンを健康保険で接種することができます。

副作用他

- 接種後 2~3 日後に、接種部位が赤く腫れる場合や、微熱が出るがありますが数日で消失します。

国産狂犬病ワクチン

接種回数・接種量

	接種回数	接種量
任意接種	暴露前接種 4 週間隔で 2 回, 6~12 カ月後に 3 回目	1.0 ミリリットル皮下接種
	暴露後接種 暴露後接種 1 回目を 0 日として 3,7,14,30,90 日	

国内承認狂犬病ワクチン

接種回数・接種量

	接種回数	接種量
任意接種	暴露前接種 0,7,21~28 日の 3 回	1.0 ミリリットル筋肉内接種
	暴露後接種 暴露後接種 1 回目を 0 日として 3,7,14,28 日の 5 回	

輸入狂犬病ワクチン

接種回数・接種量

	接種回数	接種量
任意接種	暴露前接種 1 週間以上空けて 2 回	0.5 ミリリットル筋肉内接種